

## 平成18年度 野幌プロジェクトフォローアップ委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成18年12月12日(火) 10:00～11:30
- 2 場 所 北海道開拓記念館(講堂)
- 3 出席者 委員会委員10名出席  
(傍聴者、報道関係者等を含め出席者総数27人)
- 4 進 行 委員会は公開とし、五十嵐恒夫委員が委員長。  
進行は林野庁北海道森林管理局指導普及課長が、資料説明は同局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター所長が担当。
- 5 議事等
  - (1) 林野庁北海道森林管理局計画部長挨拶
  - (2) 委員の紹介
  - (3) 「平成18年度の取組と今後の展開：資料1」及び「ニセアカシアの取扱い：資料2」について  
〔 事務局から、「資料1」及び「資料2」について説明。資料説明後、委員による質疑応答及び論議・検討。 〕

### 「資料1」についての委員の主な意見

「野幌プロジェクト」では「100年前の原始性が感じられる森林づくり」を目標にしているため、森林の区分を整理し、「自然林」等現地の実態に合わせた表記の仕方ができないか。

モニタリング調査の対象について、「コキクイムシ類」を追加できないか。コキクイムシ類の拡大に温暖化が起因しているようであり、コキクイムシ類の種類と分布がある程度分かってくると、今後の森林づくりに役立つのではないかと考えられる。

今後のモニタリング調査においては、「外生菌根菌」の発生に注目し、それと天然生稚樹の成長状況の関係を見てほしい。その調査により、風倒被害箇所の更新について、菌類の面からも考察できると考えられる。

### 【「資料1」についての全体的な評価等】

18年度においては、モニタリング調査の実施や、市民参加の森林づくり及び森林環境教育など、今年度新たに加わった取組、昨年度に比べさらに進展した取組がみられるなど、全体的には昨年度よりも向上していると考えられる。

### 【「風倒被害箇所における森林づくり」についての評価等】

市民参加の森林づくりでは、植栽に下刈が加わるなど、苦労されていると考えられるが、今後とも関係団体等と連携しながら進めてほしい。また、石狩署の対応については、今後は下刈などの保育を中心に引き続き努力してほしい。

【「野幌の豊かな森林環境を生かした森林環境教育の推進」についての評価等】

森林環境教育については、種々のテーマを設定し、野幌の様々な森林環境を生かした森林教室や、「野幌森林づくり塾」が行われている。「野幌森林づくり塾」は、森林づくり等に係る個人参加の受け皿として機能している。

野幌の魅力、森林再生の各種取組等について、今後とも市民の皆さんの理解が深まるよう、引き続き努力願いたい。

【「風倒被害箇所等を対象とした調査研究の推進」についての評価等】

「森林植生」、「歩行性甲虫」、「菌類」、「野生動物」のモニタリング調査は重要な業務である。上記の4項目以外に、「コキクイムシ類」をモニタリングの対象にできないか検討願いたい。

【「植栽箇所等の状況」の「植栽箇所における天然生稚樹の状況」についての評価等】

できる限り風に強い森林をつくる観点から、「植え幅」を広く残し、そこに天然下種更新を期待している。天然生稚樹と植栽木と一緒に育成していく森林づくりに取り組んでおり、引き続き現地の生育調査を続けるなどしてほしい。

植栽木の生育状況が悪い箇所については、植栽した関係団体等で補植するなど、関係団体等と連携して進めていただきたい。

【「植栽箇所等の状況」の「案内板等の整備」についての評価等】

案内板等については、表示する内容やデザイン等に十分に留意して進めていただきたい。また、案内板等が同じ箇所に乱立することがないように、御配慮願いたい。

「資料2」についての委員の主な意見

「野幌プロジェクト」では「100年前の原始性が感じられる森林」を目標にし、従前のような野幌の郷土樹種で構成された森林を目指していると考えられるので、市民参加等で森林づくりをしている箇所やその周辺では、ニセアカシアの母樹の伐採、萌芽枝（樹木の切り株や幹の根元付近等から発生した芽が枝状に大きくなったもの）の刈り払い等をせざるを得ない。

ニセアカシアの母樹の伐採については賛成。野幌の森林については、道立自然公園として第1種～第3種特別地域という保護区域を設定するなどしているため、これらの規制を基に母樹の伐採の順序等を考えたらどうか。

ニセアカシアは特に歩道縁の日当たりのよい空隙地で繁茂している状況なので、その付近に生えているニセアカシアを選木して対処していただきたい。

植栽箇所の「残し幅」の中のニセアカシアの伐根から萌芽してくる萌芽枝の処理も大変。「残し幅」の中までは萌芽枝の刈り払いが十分にできず、その成長も旺盛のままの箇所がある。

ニセアカシアを伐採した場合、その材は有効に活用願いたい。

野幌森林公園には大正時代にニセアカシアを植栽した箇所があるが、その植栽箇所の取扱いについては、改めて検討する必要があると考えられる。

【「ニセアカシアの取扱い」についての評価等】

資料2の「2 今後の取扱い」のように、ニセアカシアの母樹の伐採、その後の萌芽枝の刈り払い等は適切であると考えられる。今後、ニセアカシアの母樹の伐採については、法的な面もあるので、関係機関や現地での森林づくりに参加する団体と調整・連携を図りつつ進めていただきたい。

ニセアカシアの伐採木の有効利用について検討願いたい。また、伐採木の成長状況についても一応確認しておく方がよい。

【その他】

野幌国有林が「国民の森林」としてよりよく評価されるよう、関係者には引き続き努力をお願いします。今後の森林づくりの展開に期待したい。

(以上)